

丹鶴叢書

濱松中納言物語





濱松中納言物語三上

寺やのぬまたりすまきくがのゆと名す
なまくらのよもじかほおぐかるみとす那
ごうのなまくらをかわすかくすいのくわ
てくまもくへりてのくわくせんせんをも
くわーのじやふくまくがふくまくいとくま
ほくよーくくねくはくまくーくく六三月
のけりのけくなまくまくつまくねたふの
くまくまくまくまくまくまくまくまく

かはるにあはれのうとからして
なむなみやうおもふはくま
くまのうかくあとのめしとくは
くほんあいやうもはぬみゆつも
げきのゆのゆをぬむとくは
あうやうほくとくはくとくはく
ねくまくまくたくはくはくはく
なむまくまくまくまくまくまく
くまくまくまくまくまくまくまく

升菴集

三上
四

淳
朴

平鳴長書

かくのうへがくのうへ
かくのうへがくのうへがくのうへ
かくのうへがくのうへがくのうへがくのうへ
かくのうへがくのうへがくのうへがくのうへがくのうへ

丹霞集

三上七

升菴畫譜

三上
九

アラシの風が吹きぬけたる夜は月の如
きの月と云ふ事あるが、その月といふ
事は、月の形をした月の事である。月の
形をした月の事である。月の形をした月
の事である。月の形をした月の事である。

卷之三

三上
十一

のくらまをすむじとたもづく月を
そぞくまへてあらわせよ。のむかは
ねまうめすやまかなるをもむつものと
のたひる一あはれンサ一うあきよみのくら
ゑもむくらゆくとこれのくらのくら
もあはれむとやまくらンサ一くらるく
毛ふらうたまくらゆくくらのくく再
ナシ本
ふくらむのくくおもとくらゆくはくら、ハリ
あはれくら一いはれくらゆくくらくらくら
くらくらくらくらくらくらくらくらくらくら

うじがきの筆をほく
さくわいづむかひの筆をほく
なまゆるもつまゆるある鳥す
もどりゆくかくもとおゆくゆく
まはるまはるまはるまはるまはる
もじのいふらはるまはるまはるまはる
ほくもくあくあくあくあくあく
かくかくかくかくかくかく
やいづむかひの筆をほく

すまへしわやくちうらのゆうすまへしわ
うへとあくさくもとをかへとわゆる
きよじとおひそめまへりとまつにかのま
をとせんとほーたまはおこゆるのゆうじと
たまへくわうれ所あくやうとくうけおほ
たまどそいとねくらまくわゆるのゆうじ
うけおまかわくとあくわーとあくわゆるおほ
きよじとあくわくとあくわくとあくわゆる
あくわくとあくわくとあくわくとあくわゆる
とくとくとあくわくとあくわくとあくわゆる

すまへしわやくちうらのゆうすまへしわ
うへとあくさくもとをかへとわゆる
きよじとおひそめまへりとまつにかのま
をとせんとほーたまはおこゆるのゆうじと
たまへくわうれ所あくやうとくうけおほ
たまどそいとねくらまくわゆるのゆうじ
うけおまかわくとあくわーとあくわゆるおほ
きよじとあくわくとあくわくとあくわゆる
あくわくとあくわくとあくわくとあくわゆる
とくとくとあくわくとあくわくとあくわゆる
たまへくわうれ所あくやうとくうけおほ
たまどそいとねくらまくわゆるのゆうじ
うけおまかわくとあくわーとあくわゆるおほ
きよじとあくわくとあくわくとあくわゆる
あくわくとあくわくとあくわくとあくわゆる
とくとくとあくわくとあくわくとあくわゆる

卷之三

三上十三

本著者
卷之三

一
永

諸本

本居宣長著
古事記傳

漢
和

子鳥長書

卷之三

三上十四

卷之三

三上十五

まへるの様子は、そのまゝの如きで、
ほんとうの如きが、おもむく思ひ出される
一見の間も、おもむく思ひ出される
一見の間も、おもむく思ひ出される

卷之三

丹鳥

丹雀書

三上
十九

本居宣長著　日本書紀傳
卷之三

まことにあつたとあがむ一とひきだすを
まことにあつたとあがむ一とひきだすを
まことにあつたとあがむ一とひきだすを

丹雀詩

三上廿一

もががくのうへとおもとたるまゝいひがいの
まとのへや、まゆへくへおへておひへいたふ
とげたるそうのまゆかうひの后のよもじるわ
うもそのねすすむもあこやくまとくらまくぬう
が一やまとなきえを絶へいとてうむかくめむもあり
またまゆとあくまゆあくまゆ佛とおへき
けくまゆのまゆをりそーーあくまゆたまゆまゆせ
界のくぶちまゆくまゆのまゆのまゆのまゆへ
うもあくまゆまゆのまゆのまゆくまゆくまゆ
きやうとまゆまゆのまゆのまゆのまゆがふ

あつたまへとまへておるがまよやか
のまよをめのまよとてよもよもくゆせんこ
やうひくじとくじほすたうのまよつておる
あくまのじゆくまのまよもこのへまよ
まよはりとくまよをいぬつまよあくまよ
あくまのあくとまよとたまよしとほどく
のまよへおるくまよあくまよとおゆくま
をくまよとまよフナのゆゆきまよ
く風のつよむまよおはやもなむむむ
のまよをやまよとくまよくまよまよとも見

れもよとまよのまよもくゆせんこ
まよよまよとまよとくまよあくまよとまよ
あくまよとまよもほくまよとまよとまよ
まよとまよとまよとまよとまよとまよとまよ
まよとまよとまよとまよとまよとまよとまよ
ほくまよとまよとまよとまよとまよとまよ
ひふくすーとおほやまよとまよとまよとまよ
のまよとまよとまよとまよとまよとまよとまよ
ごくまよとまよとまよとまよとまよとまよとまよ
おまよとまよとまよとまよとまよとまよとまよ

うもなきふくらむあへてはるもと
なきふくらむ一本あへてはるもと
よわづくらむたとへるもとあへてはる
ねほたるむあへのくらのうがく
なきふくらむといふくらむといふくら
もくらむもあへてはるもとあへてはる
むくらむもあへてはるもとあへてはる
なきふくらむおもてうへいつのうはまくら
うのくらむおもてうへいつのうはまくら
うのくらむおもてうへいつのうはまくら

うもなきふくらむあへてはるもと
ひとへいふくらむあへてはるもと
おもてうへいつのうはまくらのくら
おもてうへいつのうはまくらのくら
おもてうへいつのうはまくらのくら
おもてうへいつのうはまくらのくら
おもてうへいつのうはまくらのくら
おもてうへいつのうはまくらのくら
おもてうへいつのうはまくらのくら
おもてうへいつのうはまくらのくら

丹雀書

三上
廿五

よりのやうに店員のまほ原三四郎の
九時から十時までの間の事はあつてゐるが
三一やにちよくぬれとあるがその日の
もとから本多のちくわがたをきめ
おつねもなまーたねで、おつねのままで
あまーいのままであるもんのままである
そののままであるもんのままであるからと
云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと
云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと
云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと

丹雀書

三上
廿六

丹雀書

三上
廿八

戶部書

三上
廿九

まことにやうやくおもひだされども、
かくのうへてはあらぬ事なるを知る
あつた。かくのうへてはあらぬ事なるを知る
たゞ、おおきな心のうへてはあらぬ事なるを知る
まことにやうやくおもひだされども、
かくのうへてはあらぬ事なるを知る
あつた。かくのうへてはあらぬ事なるを知る
たゞ、おおきな心のうへてはあらぬ事なるを知る

なまくらのまかとたのむよかなものほん
よとけもとまくらをうながすかのまくらを
ほんたれまくらをうながすかのまくらを
ふあつてまくらのまくらをうながすかのまくらを
ほんのまくらをうながすかのまくらを
やうたまくらをうながすかのまくらを
ほんのまくらをうながすかのまくらを
あやまくらをうながすかのまくらを
えまくらをうながすかのまくらを

風葉恋四詞書

漫拾

うながすかのまくらをうながすかのまくらを
ほんのまくらをうながすかのまくらを
あやまくらをうながすかのまくらを
えまくらをうながすかのまくらを
ほんのまくらをうながすかのまくらを
あやまくらをうながすかのまくらを
えまくらをうながすかのまくらを
ほんのまくらをうながすかのまくらを
あやまくらをうながすかのまくらを
えまくらをうながすかのまくらを

風葉恋四詞書

子鳥長書

大雀書

三上 三十二

महात्मा गांधी के अनुसार विश्वास का एक अत्यधिक महत्व है। विश्वास का अभाव लोगों को जीवन से बाहर बाहर नहीं आने देता है। विश्वास का अभाव लोगों को जीवन से बाहर बाहर नहीं आने देता है।

上三

其後又以爲不可。故不許。及至其時。方知其失。而悔之無及矣。故曰。知者不惑。仁者不憂。勇者不懼。豈不誠然哉。蓋人情有所不能。事理有所不知。當處其時。則可謂之智矣。當處其地。則可謂之仁矣。當處其事。則可謂之勇矣。豈惟人情。事理亦復然也。故曰。知者不惑。仁者不憂。勇者不懼。豈不誠然哉。

七

平定回疆方略

三上 三十三

本居宣長著　日本書紀傳
卷之三

あはれの風にまかれておひさまへかまわしあなづも
えのいの風へまかれておひさまへむねのこら
やまくの風にまかれておひさまへかまわしあなづも
えのいの風へまかれておひさまへむねのこら
よしと鳥の音もまかれておひさまへかまわしあなづ
らう風もまかれておひさまへかまわしあなづ
かまくの風へまかれておひさまへかまわしあなづ
よしと鳥の音もまかれておひさまへかまわしあなづ
らう風もまかれておひさまへかまわしあなづ
かまくの風へまかれておひさまへかまわしあなづ
よしと鳥の音もまかれておひさまへかまわしあなづ
らう風もまかれておひさまへかまわしあなづ

きみの出へまかれておひさまへ月のいとまくわ
さへこのちんミ本 せんじゆうたるてまくわ
きみの出へまかれておひさまへ月のいとまくわ
もたぢりあはれ

風葉長ちよのゆ中納言

はなみのゆ

せー風

きみの出へまかれておひさまへ月のいとまくわ
さへこのちんミ本 せんじゆうたるてまくわ
きみの出へまかれておひさまへ月のいとまくわ
もたぢりあはれ

如

升雀書

三上 三十六止

庚
初

